

# 令和7(2025)年度 学校経営方針

ブダペスト日本人学校  
校長 和氣 敬二

## (1) 学校経営の基調

### <設置者とステータス>

ブダペスト日本人学校は、昭和 51 年(1976 年)ブダペスト日本語補習校を母体とし、日本国政府の海外子女教育施策に基づき、平成 17 年(2005 年)に現地の日本人会(現在ハンガリー日本商工会)により設置された教育施設である。文部科学省の認定する在外教育施設(日本人学校)として、文部科学省の定める学習指導要領に準拠した教育課程を編成し実施するとともに、ハンガリー教育省より正式に認可された私立学校として、ハンガリーについて学び・体験する特色ある教育活動も併せて実施している学校でもある。

## (2) 学校運営の理念

- I どの子供も磨けば輝く宝である。その子供の良さを発見し、伸ばすための効果的な指導の役割を担うのが教師である。  
教師の言動は、子供の将来にわたって大きな影響力を及ぼすことを自覚し、専門性と人間力を高めるために日々研鑽を積む。
- II 常に社会の動向に注視し、時代の要請や変化を的確に把握し、教育内容や方法の改善を図っていく。また、組織の和を重んじ、良き伝統は受け継ぎ、課題解決に向けては、迅速かつ組織的に対応する。
- III 児童生徒・教師ともに、日本とハンガリー両国の文化交流、教育交流を通して、相互理解を深める教育活動を推進し、両国の友好・親善に努める。

## (3) 学校の教育目標

豊かな人間性と自ら考え主体的に判断して行動できる力、国際社会の中で活躍できる力の育成を目指して教育目標を設定し、具現化に向けた教育活動を推進する。

- 主体的・意欲的に学び、他者と協働しながら学びを深める児童生徒の育成
- 互いの違いを認め合い、思いやりの心をもって行動し自律した生活を送る児童生徒の育成
- ◎自らの健康の増進や体力の向上に、積極的に努める児童生徒の育成(今年度の重点)
- 日本やハンガリーの文化に興味・関心をもち、コミュニケーションを通して積極的に関わる児童生徒の育成

#### (4) 目指す学校の姿

- ◇ 知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動を推進し、自ら考え、主体的に判断して行動できる力と国際社会の中で活躍できる力の育成を目指す学校。
- ◇ 小規模校の強みを生かし、一人一人の児童生徒に寄り添いながら教育活動を進め、児童生徒が学ぶ楽しさ、学ぶ喜びを体感できる学校。

#### (5) 目指す児童生徒の姿(太字は重点)

- ◎4つの『あ』の花をさかせよう「あいさつ」「あったかことば」「あきらめない」「あんぜん」
- 心ほかほか
  - ・ 自分を大切にするとともに、相手も大切にし、気持ちのいい挨拶ができる児童生徒
- 瞳きらきら
  - ・ 自分の考えをもち、適切な判断・表現をし、他者と協働しながら学びを深める児童生徒
  - ・ 自学自習ができる児童生徒
- 元気もりもり
  - ・ 運動の楽しさを実感し、進んで体力向上やスポーツ活動に取り組む児童生徒
- 交流わくわく
  - ・ ハンガリーの伝統や文化・自然に触れ、現地の人とより良いコミュニケーションを図ろうとする児童生徒

#### (6) 目指す教師の姿

- 学校経営方針に基づき、組織的に職務にあたり、各分掌・学部等のチームで共通理解を図りながら、目標の達成に向けて責任と役割を果たす教師
- 児童生徒の心情をよく理解し、自己実現に向けて共感的に寄り添い、労を惜しまず支援する教師
- ◎ ハンガリーの伝統や文化、教育事情等を理解するとともに、帰国後に、在外教育施設での教育実践や体験を広く生かそうとする意欲や態度をもつ教師(令和7年度重点)
- ◎現状の自分に満足せず、自身の研鑽・自己啓発に励む教師  
(生涯学習人として学びの姿勢を児童生徒に見せられる教師)

#### (7) 保護者に期待する姿

- 我が子のしつけを責任もって行い、社会性の育成に向けて学校と連絡・連携を密にして  
共育する保護者

## (8) 学校運営の基本となる7つの柱

### ① 児童生徒の安全安心な学校生活の実現

- ア 感染予防等のため、児童生徒の健康観察と衛生指導をするとともに、清掃活動を通じて、安全かつ衛生的な学習環境を保持する。
- イ 学校施設・設備の日常的・定期的な点検を行い、事故の未然防止に努める。
- ウ 学校安全対策マニュアルに基づき、各種の避難訓練や安全指導を通し、児童生徒の危機管理意識を向上させ、自ら危険を回避しようとする意欲・態度・能力を育てる。
- エ 登下校や休み時間は、児童生徒の見守りと適切な指導を行い、事故防止に努める。

### ② 豊かな心の醸成

- ア「特別の教科 道徳」を要に、心と体の調和のとれた児童生徒の育成を目指す。
- イ 全教育活動を通して自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、協働しながら様々な教育活動に取り組む態度を養う。
- ウ 学校行事や特別活動（児童生徒会活動や係活動）などを通して、主体的に活動しようとする意欲や協力して役割を果たそうとする態度を養う。

### ③ 学習指導要領が求める3つの資質・能力の育成



- ア 3つの資質・能力をバランスよく育むために、

「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて授業改善を推進する。

#### イ 言語能力の育成

- ・教師の言葉、板書、教師と児童生徒・児童生徒同士の話し言葉、国語科を要とし、他の教科等においてもレポートの作成や議論などの言語活動を行い、言語能力の向上に努める。また、読書活動を通して言葉の力を育む。

#### ウ 情報活用能力の育成

- ・ オンライン授業の経験を活かし、コンピュータ等を適切に活用した学習活動の充実に努める。
- ・ 小学部では、プログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を取り入れる。

エ 見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の充実

- ・ 児童生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動を意図的に取り入れ、自ら学習に向かい、目的意識をもって活動する力を育む。

オ 探究的な活動や体験的な活動の推進

- ・ 各教科の特質に応じ、児童生徒が主体的に、また他者と協働しながら学ぶ機会を意図的に設ける。また、活動や体験を通して、学ぶ楽しさや協働することの重要性を体感させ、自己の考えを広め深める力を伸長する。

カ 各教科等で習得した概念や考え方を活用する教科横断的な学びを推進する。

キ 自主的・自発的な学習の充実

- ・ 児童生徒が課題を見つけ、自分なりの方法を選択して解決に取り組めるような学習活動を計画的に取り入れ、自ら考え実践する力を育む。
- ・ 「自主学習ノート」を活用し、適切な助言や指導を行い、児童生徒の家庭学習習慣の確立や自学自習できる力を伸長する。

**④ 自国及び他国の伝統・文化を尊重する態度と現地の人々と積極的にかかわりより良い人間関係を築こうとする意欲の醸成**

ア 日本の伝統・文化に対する理解を深める授業や教育活動等を通し、我が国の良さを知り、郷土を愛する心や態度を培う。

イ ハンガリーでの生活や校外学習、現地校児童等との交流、ハンガリー語の学習を通して異文化理解を促進するとともに、国際社会の一員としての意識を醸成する。

ウ 英語・英会話・外国語活動の学習を通して、実践的な英語活用能力を高める。また、小学部1・2年生については英会話の授業を特設、小学部3・4年生の外国語活動の時間は英会話の授業で代替、小学部5・6年生の外国語の授業は、BJ タイムと英会話の授業をもって代替する。中学生については英会話の授業を特設する。授業のねらいについては、小・中学校学習指導要領に定める目標に準拠し、教科担当教師と外国人講師がチームティーチングで授業を進める。

**⑤ 自ら進んで健康体力の保持・増進に努めようとする児童生徒の育成**

ア 毎日の検温や体調管理に努め、手洗いやマスクの着用、三密の回避など、新型コロナウイルス感染症防止に向けて、児童生徒が進んで衛生管理に努める態度を育む。

イ 体力向上を目指し、意図的・計画的な体育・保健体育の授業及び部活動を推進する。

ウ 中休みや昼休みを使い、遊びやレクリエーション、運動・スポーツ活動を通して、児童生徒の豊かなスポーツライフの基礎を培う。

## ⑥ キャリア教育の推進

- ア 児童生徒のキャリア教育に関わる諸活動について、児童生徒自身が自らの学習状況や目標の実現状況を把握しながら、自身の変容や成長を自己評価できるような「BJSパスポート」を作成し、活用を図る。
- イ 総合的な学習の時間の学校テーマを「自立と共生」として、児童生徒の発達段階に応じたサブテーマを設定し、職業や生活との関連を重視し勤労を重んずる態度を養うことをねらいとしたキャリア教育を推進する。

## ⑦ 保護者への適切な情報の発信と信頼できる学校づくり

- ア 学校だよりや保護者へのお知らせを通じて、学校の方針や教育活動の見通しなどを保護者に適宜発信する。
- イ 個人情報の保護に留意しながら、ホームページや学級通信を通して、児童生徒の学校生活の様子を適宜発信する。
- ウ 保護者との個別の相談、こまめな連絡を通して、一人一人の児童生徒や保護者に寄り添った学級経営を推進する。